

○ 書王定國所藏煙江疊嶂圖
近世の文学作品読解の参考文献集

久富 哲雄編・解題

影印

仮名つき

錦繡段・二體詩・古文真寶

クレス出版

刊行にあたって

久富 哲 雄

我が国の古典文学作品を、なるべくその当時の読み方に近い読み方で読み進もうとする時に、語句の清濁や読み方に戸惑う場合がある。二通りに読める時には、何を拠り所にして、一方の読みをその作品に適用するか、というような問題の生じる場合もある。

江戸時代の作品、特に松尾芭蕉の作品中の語句の読み方については、『節用集大全』『合類節用集』『書言字考節用集』等の影印本が出版されているので、その助けを借ることができる。しかし、節用集だけで用を足すことができるわけではない。

芭蕉の俳諧紀行『おくのほそ道』平泉の章の前半の末尾に、
国破れて山河あり、城春にして草青みたりと、笠打敷て時のうつるまで、
なみだを落し侍りぬ。

とあることは、高等学校の古典教材としても多く採用されている個所であるから、周知のことであろう。

この文中の「城」をどのように読んだらよいのか。いま一般的には、典拠となった杜甫の詩「春望」を読む時に「シロ」と読んでるので、「シロハルニシテ」と読んでよいかも知れない。現にそう読んでいる『おくのほそ道』のテキストもある。

しかし、『おくのほそ道』を書いたのは、元禄時代の芭蕉である。従って、元禄ごろに杜甫の「春望」がどのように読まれていたかについて調べる必要があるだろう。

『おくのほそ道』研究の方面では、早く山崎喜好氏が『本朝文選』（改題して『風俗文選』）所収の「甲古戦場文」に、「義臣すぐつて此城にこもり」

「城春にしてハ」というふうには、「城」に音読符号の付されている点に着目して、「ジヨウと音読すべきである」とされ、「杜甫関係の古注を見ても、やはり音読して、シロではない」とも述べておられる。

芭蕉の作品を読むのに、当時の仮名草子・浮世草子その他の作品の、語句の振仮名が参考になるのは言うまでもないが、典拠となった漢詩文の読みは、和刻本漢詩文集の振仮名が大いに役立つのである。

前記の「春望」について言えば、汲古書院版の『和刻本漢詩集成 唐詩第二輯』所収『杜律集解（素本）』（刊記、天和三年十月吉日）に「国破山河在 城春草木深」と見えるのであって、これによっても山崎説を確認することができる。

また同じく『おくのほそ道』冒頭の「月日は百代の過客にして」の「百代」も、この個所の典拠たる李白の「春夜宴桃李園序」を収載する『古文真寶後集』の、「万治庚子立春上旬 次郎兵衛」の刊記を有する万治二年正月木村次郎兵衛刊本を、同じく汲古書院版『和刻本漢籍文集20』によって見ると、「百代」に「はくたい」と振仮名がある。

「元文五年庚申年九月吉日 書林心斎藤野木市兵衛再版」の刊記を有する『古文真寶後集』にも「ハクタイ」と振仮名があるので、この読みが長く行われていたことが知られる。

こういう次第であるから、振仮名つき漢詩文集の読み仮名は、芭蕉の作品に限らず、広く他の諸作品読解の際の参考になるものと考えられる。いまま少数の振仮名つき漢詩文集に過ぎないけれども、敢えて影印刊行を思い立った所以である。多くの方々のお役に立てば幸いである。

収録見本〔古文真寶後集〕90%縮小

資之崇輝忘已量之所稱指前人之瑕疵是所謂詰匠氏之不以我為楹而訾醫師以昌陽引年欲進其稀苓也

序類 春夜宴桃李園序 李太白

夫天地者萬物之逆旅光陰者百代之過客而浮生若夢為歡幾何古人秉燭夜遊良有以也况陽春召我以煙景木塊假我以文章會桃李之芳園序天倫之樂事羣季俊秀皆為惠連吾人詠歌獨慚康樂幽賞味已高談轉清開瓊筵以坐花飛羽觴而醉月不有佳作何伸雅懷如詩不成罰依金谷酒數

集昌黎文序 李漢

文者貫道之器也不深於斯道有至焉者不也易繇文象春秋書事詩詠歌書禮別其偽皆俊矣乎秦漢已前其氣渾然迨乎司馬遷相如董生揚雄劉向之徒尤所謂傑然者也

至後漢曹魏氣象萎靡司馬氏以來規模蕩盡悉謂易已下為古文剽掠潛竊為工耳文與道素塞固然莫知也先生生大曆戊申幼孤隨兄播遷韶嶺兄卒鞠於嫂氏辛勤來歸自知讀書為文日記數千百言比壯經書通念曉析醜非釋氏諸史百子搜抉無隱汗瀾卓踰齋汝澄懷詭然而蛟龍翔蔚然而虎鳳躍鏘然而韶鈞鳴日光玉潔周情孔思千態

萬貌卒澤於道德仁義炳如也洞視萬古懸惻當世遂大拯頹風教人自為時人始而驚中而笑且排先生益堅終而翕然隨以定嗚呼先生於文推陷廊清之功比於武事可謂雄偉不常者矣

送孟東野序 韓退之

大凡物不得其平則鳴州木之無聲風撓之鳴水之無聲風蕩之鳴其躍也或激之其趨

〔収録文献〕

錦繡段きんすいだん 一巻一冊。京都建仁寺大昌院の

僧、天隱龍澤編の漢詩集。唐・宋・元三朝

の詩人二二九名の絶句三二八首を、天文・

地理・節序・懷古・人品など、全十八部門

に分類して収録する。康正二年（一四五六）

成立、文明十五年（一四八三）刊。慶長二

年（一五九七）の古活字版以後、各種の版

が行われた。天和二年（一六八二）版と元

禄五年（一六九二）版を収録。

三體詩さんたいし 六卷。宋末の周弼編。唐代の詩

人一六七名の近体詩を、七言絶句・七言律

詩・五言律詩の三体に分類して収載する。

天和二年（一六八二）版と元禄八年（一六

九五）版を収録。

古文真寶前集こぶんしんぼう 十卷。宋の黄堅編。

漢代より宋代にいたる著名な漢詩を集め、

勸学文八篇以下、五言古風・七言古風・長

短句・歌・行・吟・引・曲に分類して収載

する。天和三年（一六八三）版を収録。

古文真寶後集こぶんしんぼう 十卷。宋の黄堅編。

戦国末、楚の屈原より宋代までの文章を集

め、辞・賦・説・解・序・記など全十七部

門に分類して収載する。ここに収録するの

は無刊記本である。

◇国文学関係近刊予定

俳聖松尾芭蕉研究資料集成

明治篇全9巻 久富哲雄監修・解説 俳諧の

世界のみならず日本文学全体に多大な影響を

およぼした芭蕉の、没後三百年を記念し、人

物・作品の価値ある研究書を集成する。大正

篇全11巻も刊行の予定。

揃一〇九、一八〇円（本体一〇六、〇〇〇円）

復刻俚言集覽 自筆稿本版

全12巻 太田全斎編 ことわざ研究会監修・

解題 江戸時代の代表的な三大国語辞書の一

つ『俚言集覽』の唯一の稿本を『移山伊呂波

集』とともに復刻。活字本にはない書き込み

等も多く、研究者に新たな資料を供与する。

揃一五四、五〇〇円（本体一五〇、〇〇〇円）

B5判、上製丸背クロス装、92三月末日刊
定価一〇、三〇〇円（本体一〇、〇〇〇円）

〒103東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 Mローナ日本橋
☎〇三（三八〇八）一八二一 FAX〇三（三八〇八）一八二二

株式会社クレス出版